

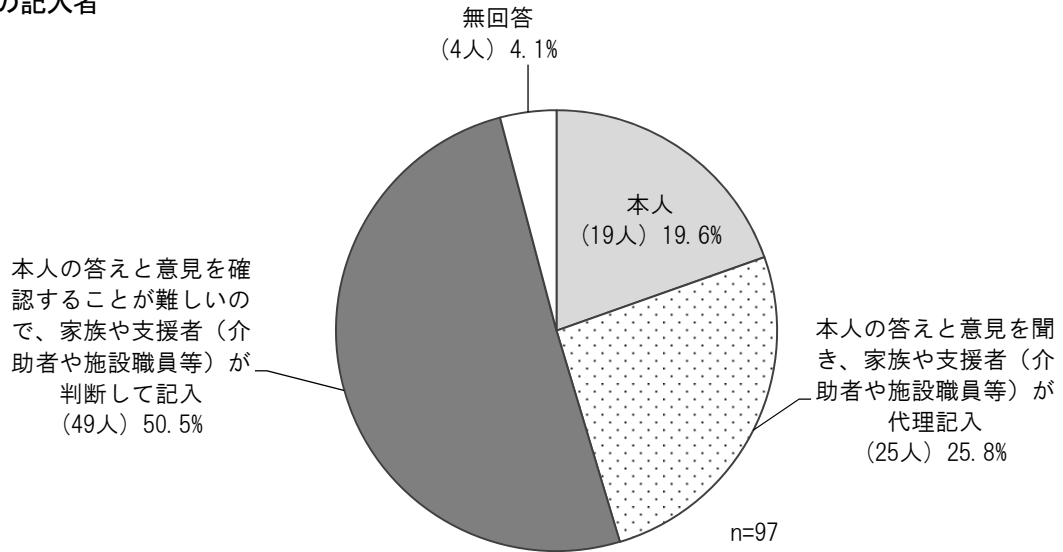
## 第8章 障害者福祉に関する調査結果（F発達障害者）

### 1 調査票の記入者

問28 この調査票に記入していただいたのはどなたですか。（1つに〇）

調査票の記入者は、「本人の答えと意見を確認することが難しいので、家族や支援者（介助者や施設職員等）が判断して記入」が50.5%で最も高く、次いで「本人の答えと意見を聞き、家族や支援者（介助者や施設職員等）が代理記入」が25.8%、「本人」は19.6%となっています。

図 調査票の記入者

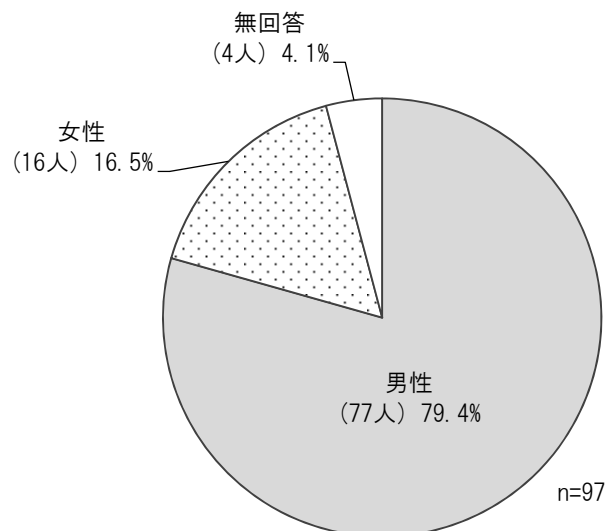


### 2 回答者の属性

問29 あなたの性別をお答えください。（1つに〇）

性別は、「男性」が79.4%、「女性」が16.5%となっています。

図 性別



**問30 あなたの年齢（平成28年10月1日現在の満年齢）はおいくつですか。**

年齢は、「18～29歳」が34.0%で最も高く、次いで「6～14歳」が15.5%となっており、18歳未満は27.9%となっています。

図 年齢

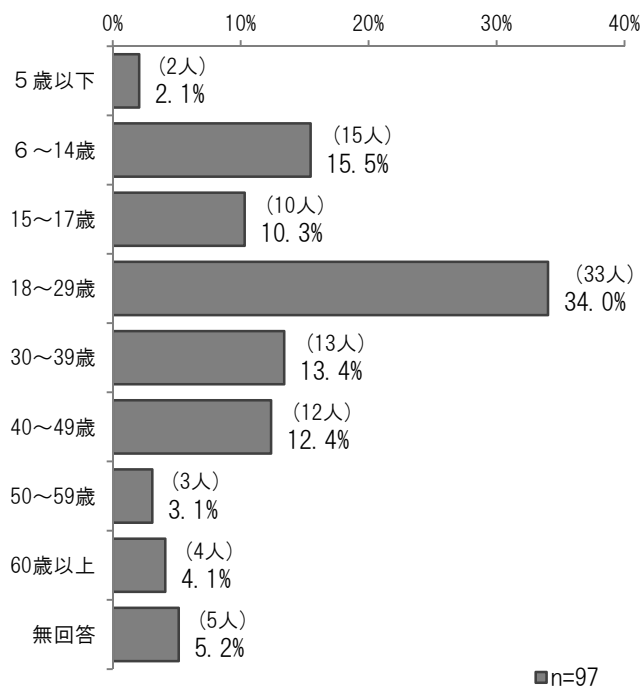


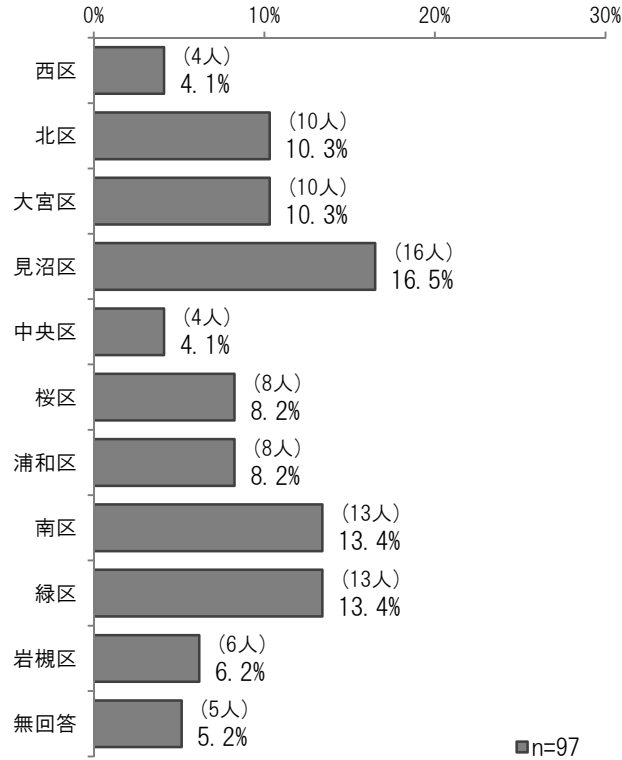
表 年齢／性別

	全体		男性		女性		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
5歳以下	2	2.1	2	2.6	0	0.0	0	0.0
6～14歳	15	15.5	14	18.2	1	6.3	0	0.0
15～17歳	10	10.3	5	6.5	4	25.0	1	25.0
18～29歳	33	34.0	26	33.8	7	43.8	0	0.0
30～39歳	13	13.4	13	16.9	0	0.0	0	0.0
40～49歳	12	12.4	10	13.0	2	12.5	0	0.0
50～59歳	3	3.1	3	3.9	0	0.0	0	0.0
60歳以上	4	4.1	4	5.2	0	0.0	0	0.0
無回答	5	5.2	0	0.0	2	12.5	3	75.0
全体	97	100.0	77	100.0	16	100.0	4	100.0

**問 31 あなたが現在住んでいる地区（市外に住んでいる方はその前に市内に住んでいた地区）はどこですか。（1つに○）**

居住地区は、「見沼区」が 16.5%で最も高く、次いで「南区」「緑区」がともに 13.4%となっています。

図 居住地区



**問 32 あなたが受けている最新の診断名をお聞きます。（すべてに○）**

受けている最新の診断名、「広汎性発達障害（自閉症スペクトラム障害）」が 75.3%で最も高く、次いで「注意欠陥・多動性障害（ADHD）」が 26.8%となっています。「広汎性発達障害（自閉症スペクトラム障害）」の種類は、「知的障害を伴う自閉症」が 58.9%、「アスペルガー症候群」が 28.8%となっています。

図 最新の診断名（複数回答）

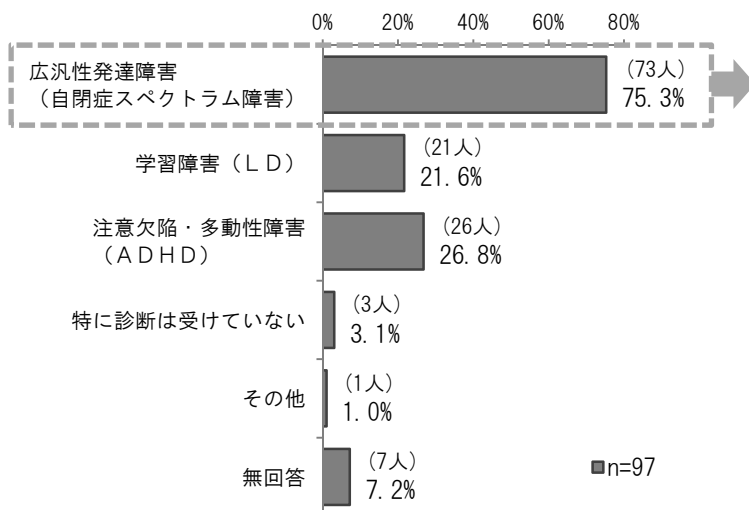
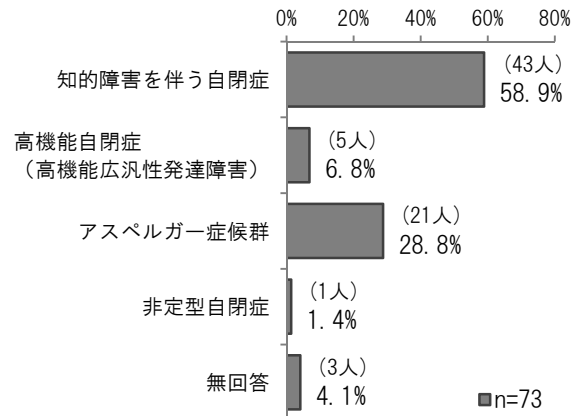


図 「広汎性発達障害」の種類



問 33 障害者手帳をお持ちの場合は、手帳の等級は何級ですか。

(1) 療育手帳

(2) 精神障害者保健福祉手帳

療育手帳を持っている人は、「**Ⓐ**」が 21.6%で最も高く、次いで「**A**」が 14.4%となっています。

精神障害者保健福祉手帳を持っている人は、「3級」が 11.3%、「2級」が 4.1%となっています。

図 療育手帳の等級

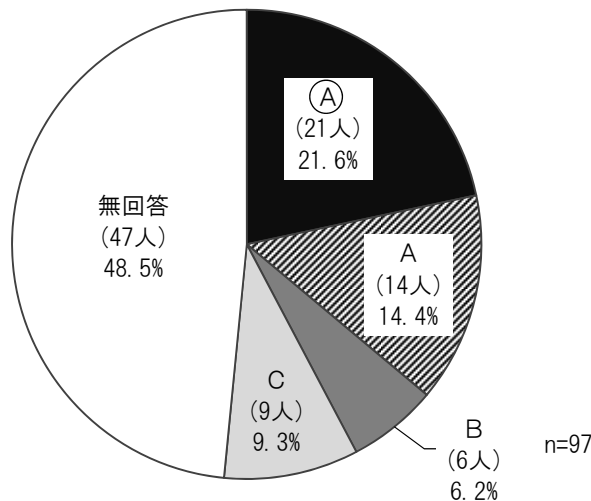
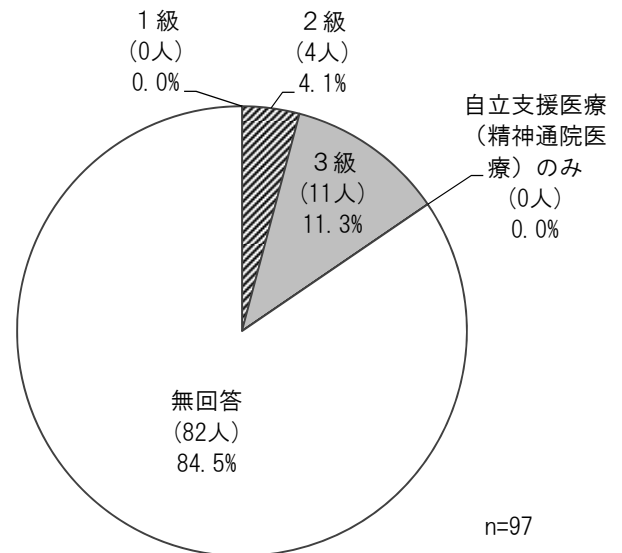


図 精神障害者保健福祉手帳の等級



(3) 身体障害者手帳（総合等級）

(3) - 1 【身体障害者手帳をお持ちの方】

どのような障害がありますか。（すべてに○）

身体障害者手帳の総合等級は、「1級」が2人、「4級」が1人となっています。

身体障害者手帳を持っている3人の身体障害の種類は、以下のとおりとなっています。

表 身体障害者手帳（総合等級）

	人数	%
1級	2	2.1
2級	0	0.0
3級	0	0.0
4級	1	1.0
5級	0	0.0
6級	0	0.0
無回答	94	96.9
全体	97	100.0

表 身体障害の種類（複数回答）

	人数	%
言葉が不自由（言語障害など）	1	33.3
下肢障害（肢体不自由）	1	33.3
心臓やじん臓、呼吸器など（内部障害）	2	66.7
全体	3	100.0

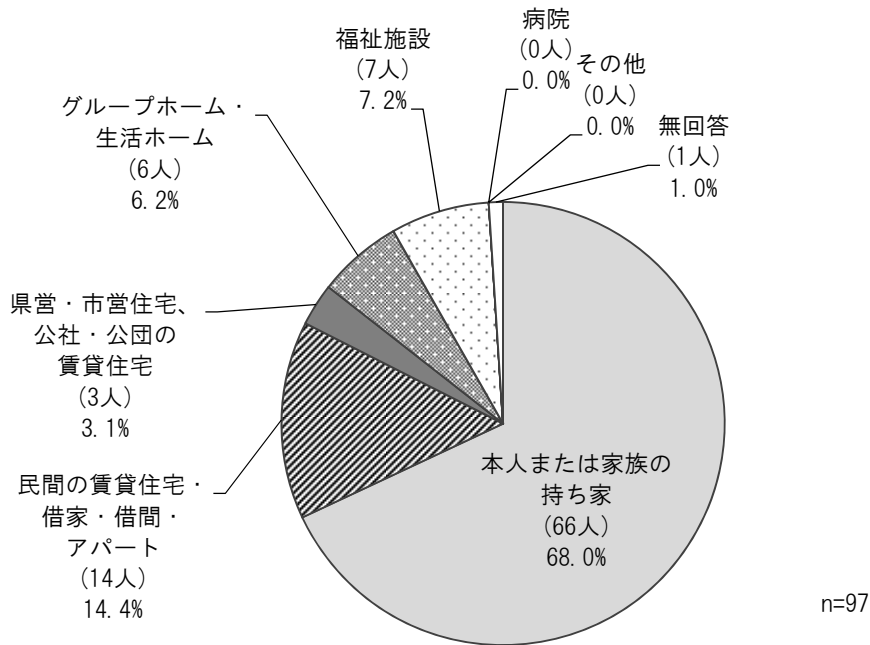
※回答のあった項目のみ記載

### 3 住む場所について

#### 問1 あなたは、どこで生活していますか。（1つに○）

生活の場所は、「本人または家族の持ち家」が68.0%で最も高くなっています。

図 生活の場



#### 問2 【問1で「本人または家族の持ち家」「民間の賃貸住宅・借家・借間・アパート」「県営・市営住宅、公社・公団の賃貸住宅」「その他」と答えた方】あなたは、誰と一緒に生活していますか。（すべてに○）

一緒に生活している人は、「父または母」が91.6%で最も高く、次いで「その他の親族」が41.0%となっています。

図 一緒に生活している人（複数回答）

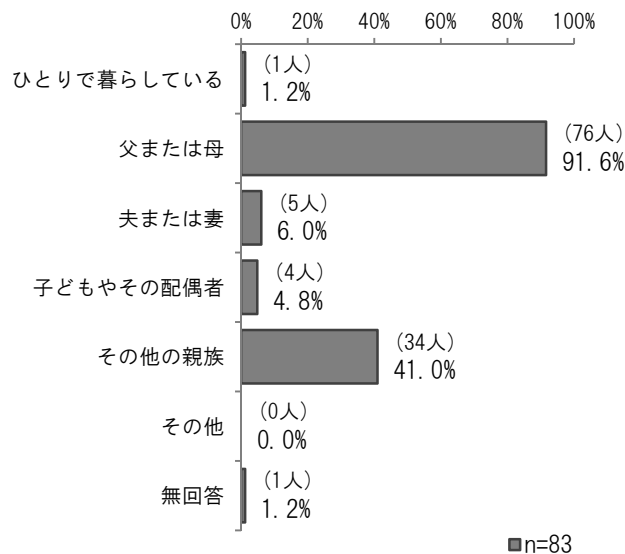


表 一緒に生活している人（複数回答）／年齢別

	5歳以下		6～14歳		15～17歳		18～29歳	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ひとりで暮らしている	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
父または母	2	100.0	15	100.0	10	100.0	32	97.0
夫または妻	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
子どもやその配偶者	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他の親族	0	0.0	7	46.7	5	50.0	17	51.5
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.0
全体	2	100.0	15	100.0	10	100.0	33	100.0

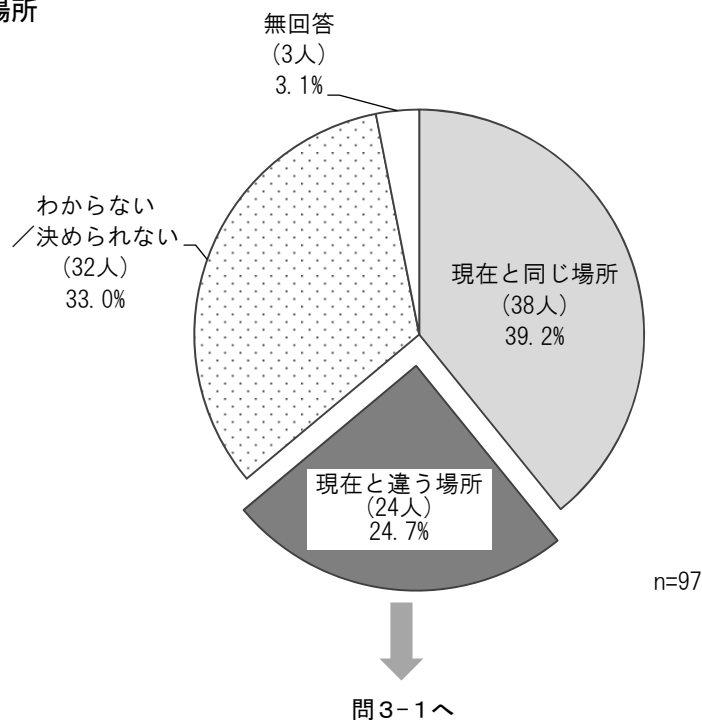
	30～39歳		40～49歳		50～59歳		60歳以上	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ひとりで暮らしている	0	0.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0
父または母	9	100.0	3	60.0	1	33.3	0	0.0
夫または妻	0	0.0	1	20.0	2	66.7	2	100.0
子どもやその配偶者	0	0.0	1	20.0	2	66.7	1	50.0
その他の親族	3	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	9	100.0	5	100.0	3	100.0	2	100.0

※年齢の無回答は掲載を省略

問3 あなたは、今後（未成年の方は成人になったら）どこで暮らしたいですか。  
（1つに○）

今後暮らしたい場所は、「現在と同じ場所」が39.2%で最も高く、「現在と違う場所」が24.7%となっています。

図 今後暮らしたい場所



問3-1 「現在と違う場所」と答えた方は、どこで暮らしたいですか。（1つに○）

問4 【問3-1で「グループホーム・生活ホーム」と答えた方にお聞きします。】  
グループホーム・生活ホームをどの地域で利用することを考えていますか。  
（1つに○）

現在と違う場所と回答した24人の暮らしたい場所は、「グループホーム・生活ホーム」が70.8%で最も高く、次いで「本人または家族の持ち家」が12.5%となっています。

グループホーム・生活ホームで暮らしたいと回答した17人の希望する地域は、「さいたま市内ならどこでもよい」が29.4%、「さいたま市南部（中央区・浦和区・南区）」が23.5%、「さいたま市北部（北区・大宮区）」が17.6%となっています。

表【現在と違う場所で暮らしたい人】  
希望する場所

	人数	%
本人または家族の持ち家	3	12.5
民間の賃貸住宅・借家・借間・アパート	1	4.2
県営・市営住宅、公社・公団の賃貸住宅	0	0.0
グループホーム・生活ホーム	17	70.8
福祉施設	3	12.5
病院	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	0	0.0
全体	24	100.0

表【グループホーム・生活ホームで暮らしたい人】  
希望する地域

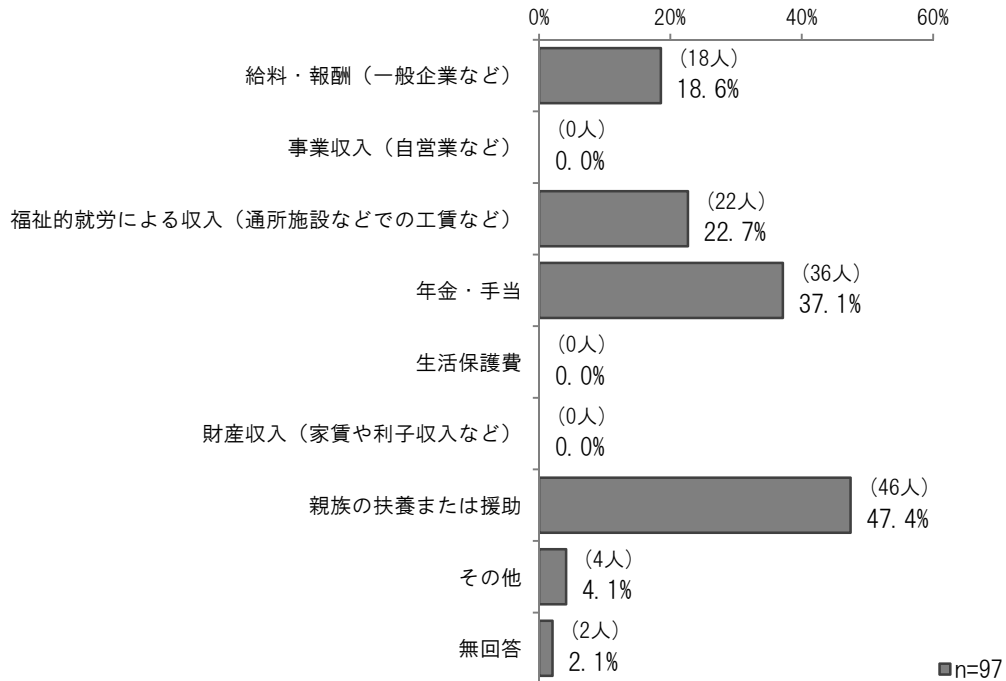
	人数	%
さいたま市北部（北区・大宮区）	3	17.6
さいたま市南部（中央区・浦和区・南区）	4	23.5
さいたま市東部（見沼区・緑区・岩槻区）	1	5.9
さいたま市西部（西区・桜区）	1	5.9
さいたま市内ならどこでもよい	5	29.4
さいたま市外	0	0.0
わからない／決めていない／考えていない	1	5.9
無回答	2	11.8
全体	17	100.0

## 4 収入の状況について

### 問5 あなたの収入は次のうちどれですか。（すべてに○）

主な収入は、「親族の扶養または援助」が47.4%で最も高く、次いで「年金・手当」が37.1%、「福祉的就労による収入（通所施設等での工賃など）」が22.7%となっています。

図 収入（複数回答）



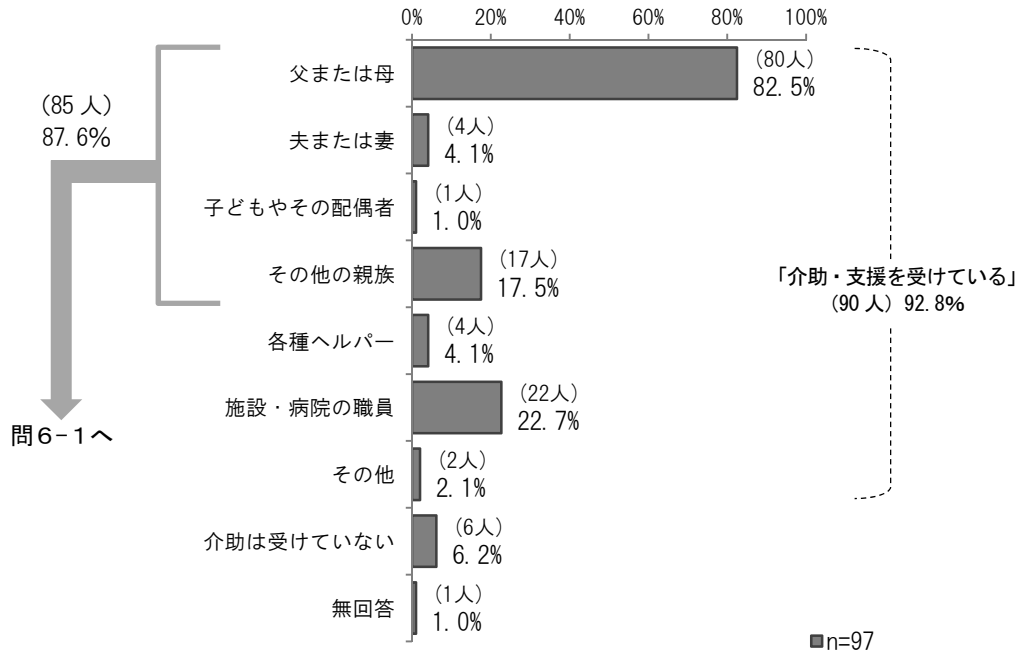


## 5 日常生活の状況について

### 問6 あなたの主な介助者（支援者）は、どなたですか。（2つまで○）

主な介助・支援を受けている方は、92.8%となっており、主な介助者は「父または母」が82.5%で最も高く、次いで「施設・病院の職員」が22.7%となっています。

図 主な介助者（支援者）（複数回答）



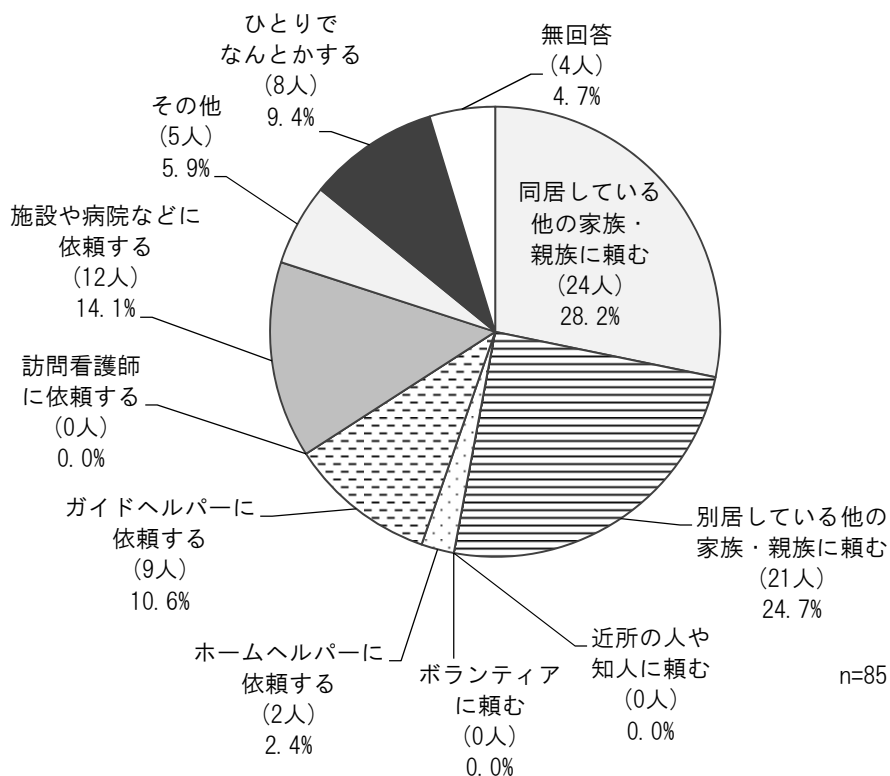
※「介助・支援を受けている」=100%－「介助は受けていない」－「無回答」

問6-1 【問6で「父または母」「夫または妻」「子どもやその配偶者」「その他の親族」と答えた方にお聞きします。】

あなたが主な介助者（支援者）から介助（支援）を受けられないときはどうしますか。（1つに○）

主に親族から介助・支援を受けている85人の受けられないときの対処は、「同居している他の家族・親族に頼む」が28.2%で最も高く、次いで「別居している他の家族・親族に頼む」が24.7%となっています。

図 【主に親族から介助・支援の受けている人】  
主な介助者（支援者）から介助（支援）受けられないときの対処



**問7 あなたは毎日の生活の中で次のようなことが不安なく自分でできますか。  
（それぞれ1つに○）**

日常生活動作の状況で、「ひとりでできる」は「家の中での移動」が 89.7%で高くなっています。一方、「すべてに支援が必要」は「銀行等での手続き」が 63.9%、「通院」が 54.6%、「お金の管理」が 53.6%で高くなっています。

図 日常生活動作の状況

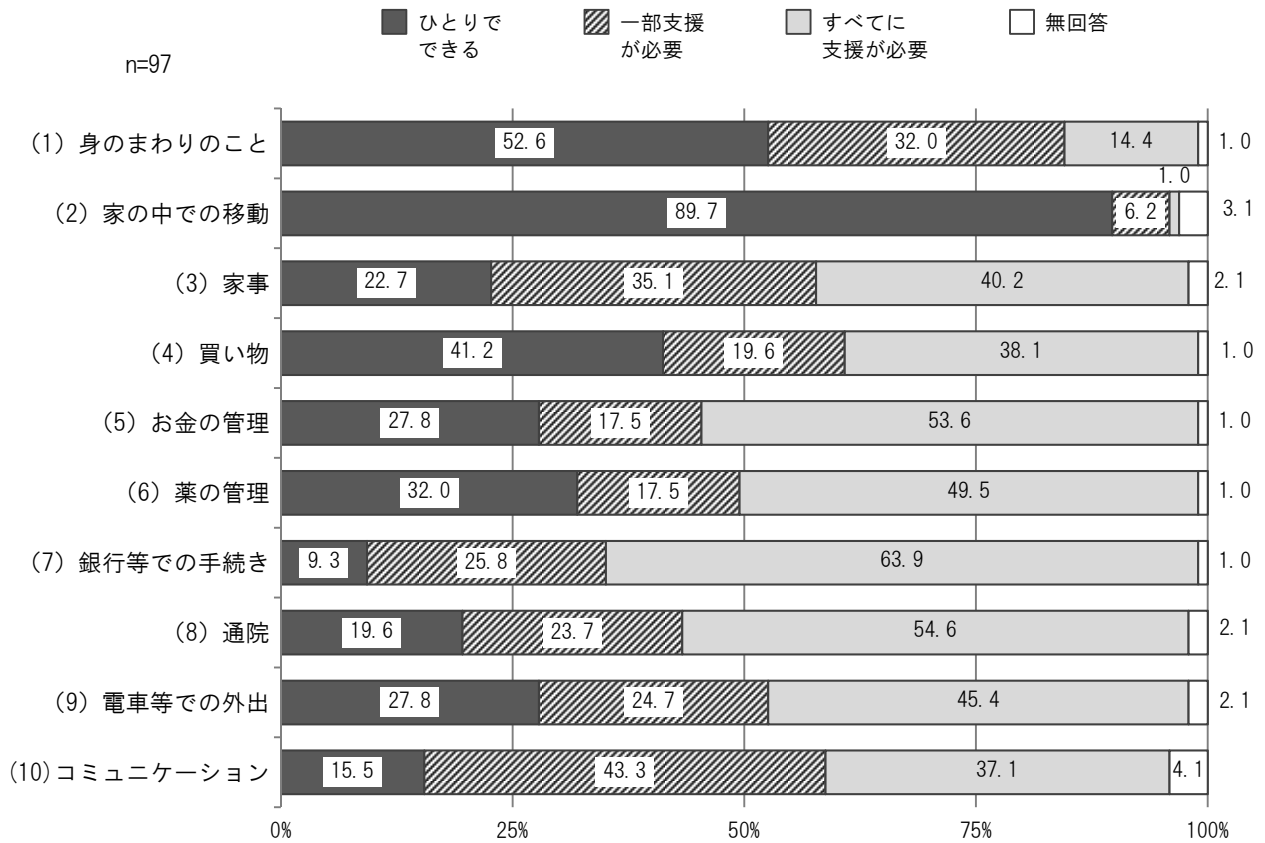


表 日常生活動作の状況

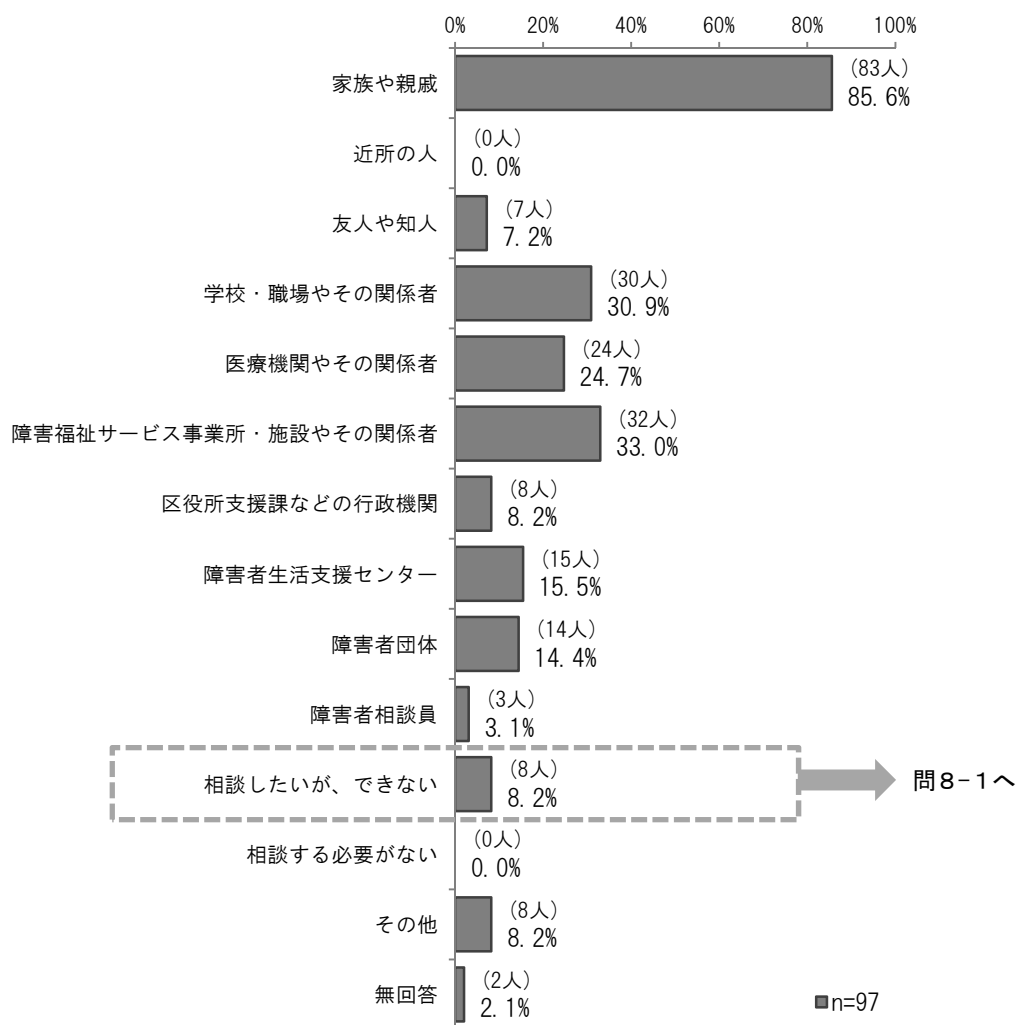
	回答者数 (人)	ひとりでできる		一部支援が必要		すべてに支援が必要		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
(1) 身のまわりのこと	97	51	52.6	31	32.0	14	14.4	1	1.0
(2) 家の中での移動	97	87	89.7	6	6.2	1	1.0	3	3.1
(3) 家事	97	22	22.7	34	35.1	39	40.2	2	2.1
(4) 買い物	97	40	41.2	19	19.6	37	38.1	1	1.0
(5) お金の管理	97	27	27.8	17	17.5	52	53.6	1	1.0
(6) 薬の管理	97	31	32.0	17	17.5	48	49.5	1	1.0
(7) 銀行等での手続き	97	9	9.3	25	25.8	62	63.9	1	1.0
(8) 通院	97	19	19.6	23	23.7	53	54.6	2	2.1
(9) 電車等での外出	97	27	27.8	24	24.7	44	45.4	2	2.1
(10) コミュニケーション	97	15	15.5	42	43.3	36	37.1	4	4.1

## 6 相談について

### 問8 相談する相手はどなたですか。（すべてに○）

相談相手は、「家族や親戚」が85.6%で最も高くなっています。一方、「相談したいが、できない」が8.2%となっています。

図 相談相手（複数回答）



#### 「その他」の主な内容

- ・相談自体ができない
- ・就学相談の先生、ジョブコーチ
- ・幼稚園、発達障害者支援センター、療育センター

**問8-1 【問8で「相談したいが、できない」と答えた方にお聞きします。】  
相談できない理由は何ですか。（すべてに○）**

相談したいが、できないと回答した8人の理由は、「どこ（誰）に相談していいかわからない」が25.0%（2人）となっています。

表 相談したいが、できない理由（複数回答）

	人数	%
どこ（誰）に相談していいかわからない	2	25.0
身近なところに相談できる場所がない	0	0.0
相談しても満足いく回答がもらえない	1	12.5
プライバシー保護に不安がある	1	12.5
夜間や休日などに相談する場所がない	1	12.5
その他	6	75.0
無回答	0	0.0
全体	8	—

「その他」の主な内容

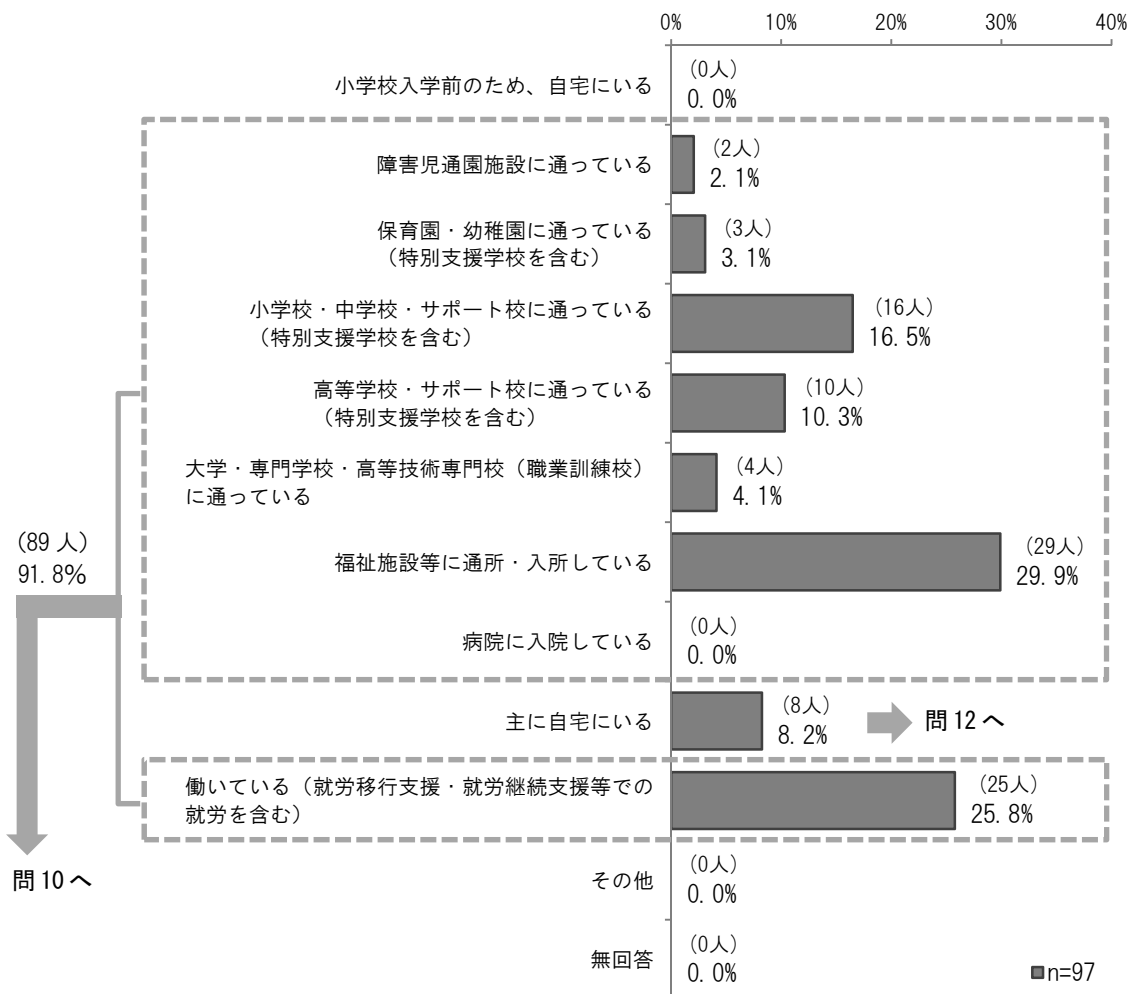
- ・自分と他人にズレがある。
- ・コミュニケーションの伝達が難しい。
- ・何々がしたいと言う相談までにはならない。

## 7 昼間の活動の場について

### 問9 あなたは、平日の昼間、どのように過ごしていますか。（1つに○）

平日の昼間の過ごし方は、「福祉施設等に通所・入所している」が29.9%で最も高く、次いで「働いている（就労移行支援・就労継続支援等での就労を含む）」が25.8%、「小学校・中学校・サポート校に通っている（特別支援学校を含む）」が16.5%となっています。

図 平日の昼間の過ごし方

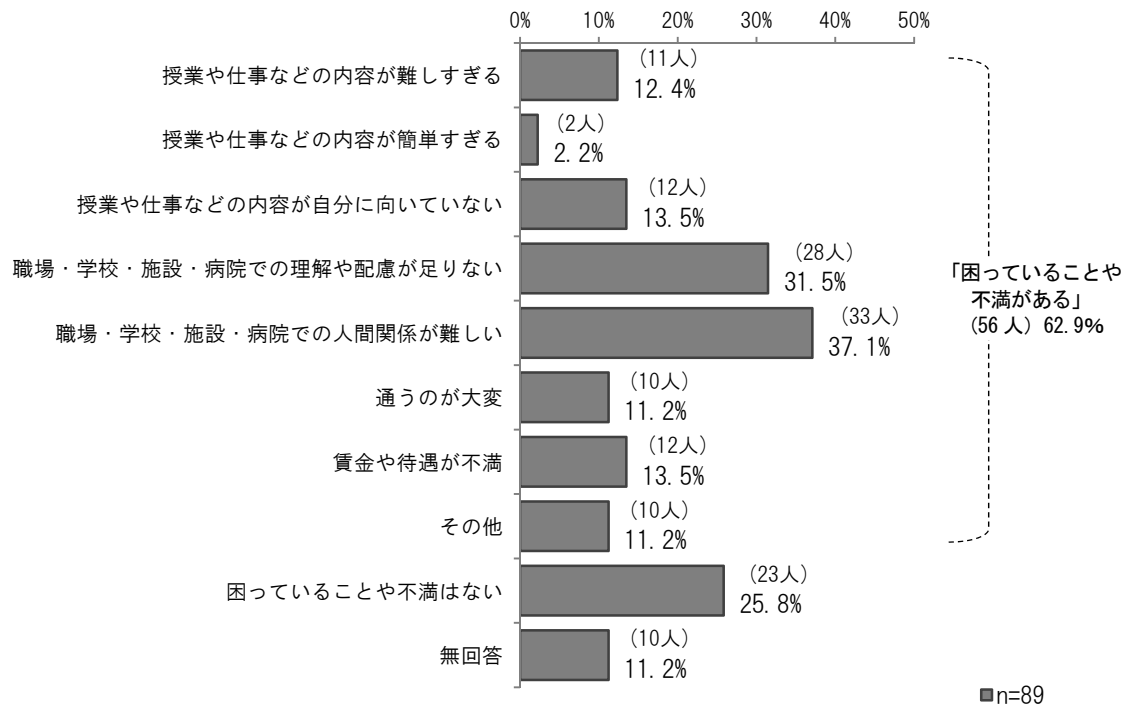


問 10 【問9で「障害児通園施設に通っている」「保育園・幼稚園に通っている」「小学校・中学校・サポート校に通っている」「高等学校・サポート校に通っている」「大学・専門学校・高等技術専門学校（職業訓練校）に通っている」「福祉施設等に通所・入所している」「病院に入院している」「働いている」と答えた方にお聞きします。】

あなたは、活動の場について困っていることや不満がありますか。（すべてに○）

上記に回答した 89 人の活動の場で困っていることや不満に思うことは、「困っていることや不満はない」が 25.8%に対し、「困っていることや不満がある」は 62.9%となっています。困っていることや不満があると回答した 56 人の内容は、「職場・学校・施設・病院での人間関係が難しい」が 37.1%、「職場・学校・施設・病院での理解や配慮が足りない」が 31.5%で高くなっています。

図 活動の場で困っていることや不満に思うこと（複数回答）

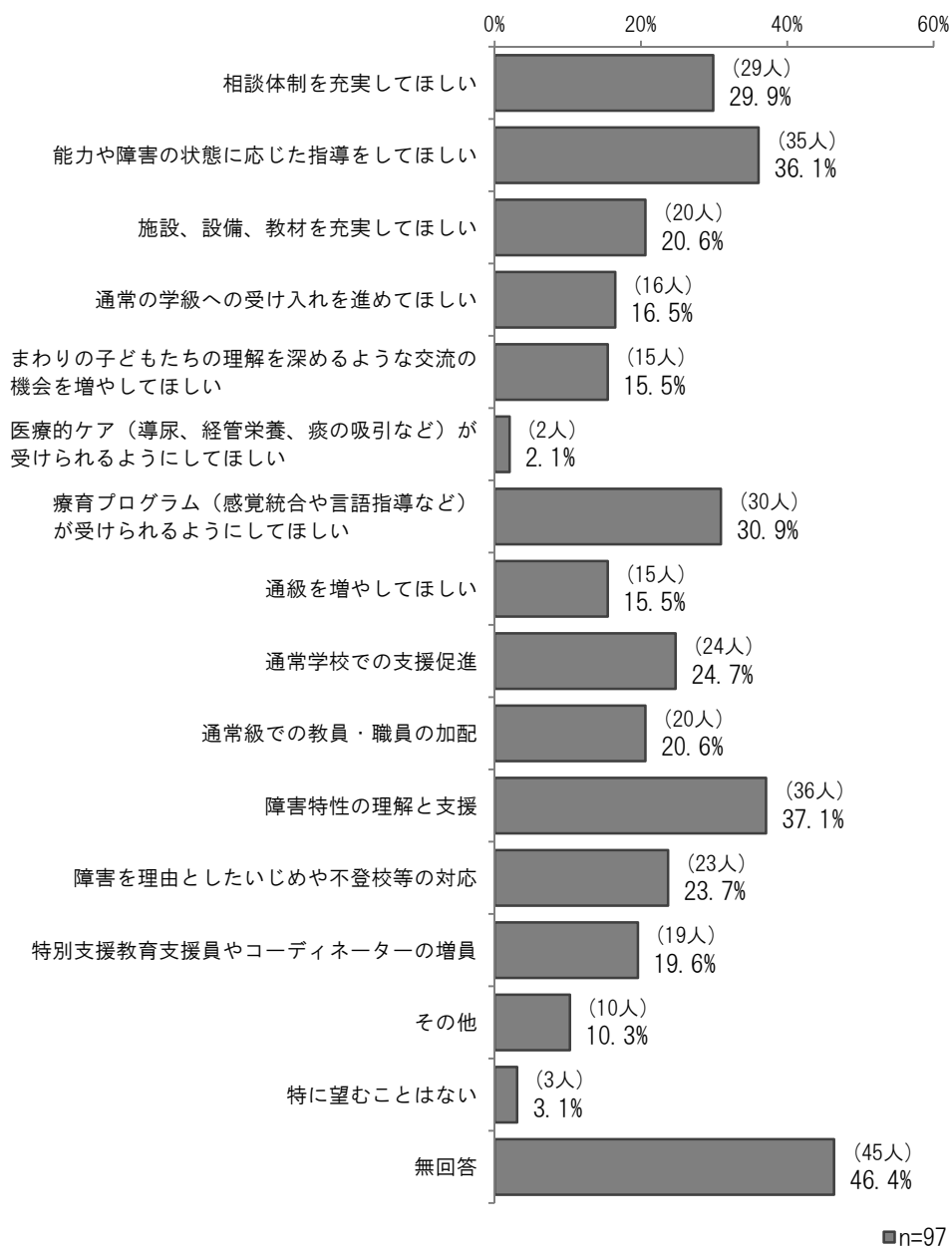


※「困っていることや不満がある」=100%－「困っていることや不満はない」－「無回答」

**問 11 【障害や難病のあるお子さんをお持ちの保護者の方にお聞きします。】  
幼稚園、保育園、学校に望むことは何ですか。（すべてに○）**

幼稚園、保育園、学校に望むことは、「障害特性の理解と支援」が37.1%、「能力や障害の状態に応じた指導をしてほしい」が36.1%、「療育プログラム（感覚統合や言語指導など）が受けられるようにしてほしい」が30.9%で上位となっています。

図 幼稚園、保育園、学校に望むこと（複数回答）





**問 12 【問 9 で「主に自宅にいる」と答えた方にお聞きします。】**  
**あなたが、自宅にいる理由は何ですか。（1つに○）**

主に自宅にいると回答した 8 人のその理由は、「自分に合う居場所が見つからないため」が 3 人、「高齢のため」が 1 人となっています。

表 自宅にいる理由

	人数	%
自分に適した仕事が見つからないため	0	0.0
雇用してもらえないため	0	0.0
働く必要がないため	0	0.0
病気のため	0	0.0
高齢のため	1	12.5
家事・育児などがあるため	0	0.0
自分に合う居場所が見つからないため	3	37.5
その他	2	25.0
無回答	2	25.0
全 体	8	100.0

**問 13 【問 9 で「働いている」と答えた方にお聞きします。】**  
**あなたは、どのように働いていますか。（1つに○）**

働いていると回答した 25 人の就業形態は、「就労移行支援・就労継続支援など」が 28.0%で最も高く、次いで「一般企業の契約社員」が 24.0%、「パート・アルバイト」が 20.0%となっています。

表 就業形態

	人数	%
一般企業の正社員	1	4.0
一般企業の契約社員	6	24.0
特例子会社の正社員	3	12.0
特例子会社の契約社員	2	8.0
自営業	1	4.0
パート・アルバイト	5	20.0
家業（自営業）の手伝い	0	0.0
就労移行支援・就労継続支援など	7	28.0
その他	0	0.0
無回答	0	0.0
全 体	25	100.0

**問 13-1 【働いている方】あなたは、障害者手帳を利用して働いていますか。  
（1つに○）**

働いていると回答した25人の障害者手帳の利用状況は、「利用している」が80.0%となっています。

表 障害者手帳を利用して働いているか

	人数	%
利用している	20	80.0
利用していない	5	20.0
無回答	0	0.0
全体	25	100.0

**問 13-2 【働いている方】【問 13-1で「利用している」と答えた方にお聞きします。】  
利用している障害者手帳の種類は何ですか。（1つに○）**

障害者手帳を利用して働いていると回答した20人の障害者手帳の種類は、「手帳の種類は療育手帳である」が70.0%となっています。

表 利用している障害者手帳

	人数	%
手帳の種類は療育手帳である	14	70.0
手帳の種類は身体障害者手帳である	0	0.0
手帳の種類は精神障害者保健福祉手帳である	6	30.0
無回答	0	0.0
全体	20	100.0

**問 13-3 【働いている方】【問 13-1で「利用していない」と答えた方にお聞きします。】  
あなたが手帳を利用しないで働いている理由はどれですか。（1つに○）**

手帳を利用していないと回答した5人の理由は、「手帳の必要がなかったから」が2人、「手帳は持っているが、周囲の偏見が気になり、障害を隠しているから」が1人となっています。

表 障害者手帳を利用しないで働いている理由

	人数	%
手帳の必要がなかったから	2	40.0
申請したが許可されなかったから	0	0.0
手帳を申請中だから	0	0.0
申請しても許可されないと思い申請していないから	0	0.0
申請しても許可されず、障害者職業センターで障害者判定を利用したから	0	0.0
手帳を取得すると、他のサービス等が受けられなくなるから	0	0.0
手帳は持っているが、周囲の偏見が気になり、障害を隠しているから	1	20.0
その他	2	40.0
無回答	0	0.0
全体	5	100.0

問 13-4 【働いている方】あなたは、1週間に何日くらい働いていますか。  
（1つに○）

問 13-5 【働いている方】あなたは、1日に何時間くらい働いていますか。  
（1つに○）

働いていると回答した25人の1週間の就労日数は、「5日」が88.0%で最も高くなっています。  
働いていると回答した25人の1日の就労時間は、「6時間以上8時間未満」が48.0%で最も高く、次いで「4時間以上6時間未満」「8時間以上」がともに24.0%となっています。

表 1週間の就労日数

	人数	%
1日	0	0.0
2日	0	0.0
3日	1	4.0
4日	2	8.0
5日	22	88.0
6日以上	0	0.0
決まっていない	0	0.0
無回答	0	0.0
全体	25	100.0

表 1日の就労時間

	人数	%
1時間未満	0	0.0
1時間以上4時間未満	1	4.0
4時間以上6時間未満	6	24.0
6時間以上8時間未満	12	48.0
8時間以上	6	24.0
決まっていない	0	0.0
無回答	0	0.0
全体	25	100.0

問 13-6 【働いている方】あなたの、給与・賃金はどのくらいですか。

働いていると回答した25人の1か月の平均給与・賃金は、「10万円～15万円未満」が32.0%で最も高く、次いで「5万円～10万円未満」が24.0%、「1万円未満」が16.0%となっています。  
働いていると回答した25人の1年間の賞与は、「0円」が60.0%で最も高く、「1万円～3万円」が16.0%となっています。

表 1か月の平均給与・賃金

	人数	%
1万円未満	4	16.0
1万円～3万円未満	1	4.0
3万円～5万円未満	0	0.0
5万円～10万円未満	6	24.0
10万円～15万円未満	8	32.0
15万円～20万円未満	3	12.0
20万円～30万円未満	0	0.0
30万円以上	2	8.0
無回答	1	4.0
全体	25	100.0

表 1年間の賞与

	人数	%
0円	15	60.0
1円～1万円未満	0	0.0
1万円～3万円未満	4	16.0
3万円～5万円未満	0	0.0
5万円～10万円未満	2	8.0
10万円～15万円未満	0	0.0
15万円～20万円未満	0	0.0
20万円～30万円未満	0	0.0
30万円以上	1	4.0
無回答	3	12.0
全体	25	100.0

**問 13-7 【働いている方】あなたは、現在の仕事はどうやって見つけましたか。  
（1つに○）**

働いていると回答した 25 人の就職活動手段は、「共職業安定所（ハローワーク）」が 20.0%、「学校の紹介」「障害者総合支援センター」がともに 16.0%となっています。

**表 仕事をどうやって見つけたか**

	人数	%
公共職業安定所（ハローワーク）	5	20.0
民間の職業紹介会社	1	4.0
障害者総合支援センター	4	16.0
自営業	1	4.0
家族・親族の紹介	2	8.0
学校の紹介	4	16.0
知り合いの紹介	0	0.0
自分で探した	2	8.0
高等技術専門校（職業訓練校）の紹介	0	0.0
就労移行支援事業所の紹介	3	12.0
その他	3	12.0
無回答	0	0.0
全体	25	100.0

**問 13-8 【働いている方】仕事を続けるためには何が必要だと思いますか。  
（3つまで○）**

働いていると回答した 25 人が仕事を続けるために必要なことは、「職場の障害理解（合理的配慮）」が 64.0%で最も高く、次いで「良好な人間関係をつくるための援助（合理的配慮）」「能力に合った仕事（合理的配慮）」がともに 48.0%となっています。

**表 仕事を続けるために必要なこと（複数回答）**

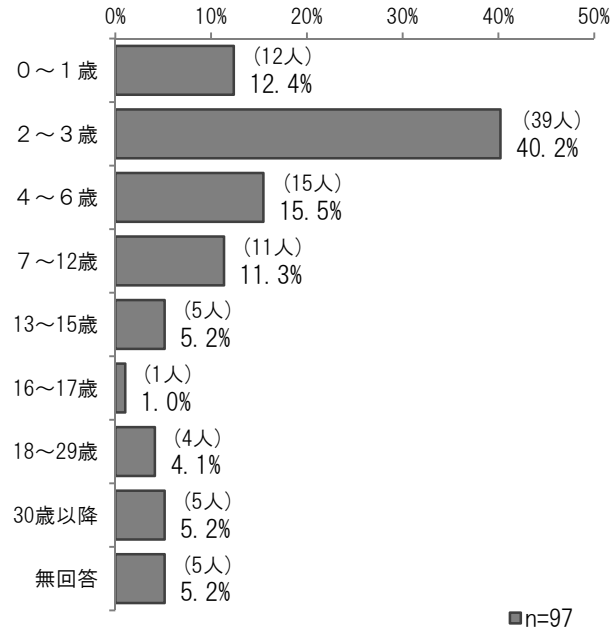
	人数	%
生活に必要な額の賃金	5	20.0
体調に合った勤務体制（合理的配慮）	3	12.0
良好な人間関係をつくるための援助（合理的配慮）	12	48.0
ジョブコーチによる支援	7	28.0
通勤のための援助	3	12.0
能力に合った仕事（合理的配慮）	12	48.0
異動や業務変更に対応していくための援助（合理的配慮）	5	20.0
職業訓練（職業リハビリテーション）	0	0.0
職場の産業医のアドバイス	0	0.0
日常生活の援助	4	16.0
パソコン、インターネット等の技術習得	0	0.0
職場の障害理解（合理的配慮）	16	64.0
病院などでの医療デイケア	0	0.0
通院による主治医のアドバイス	0	0.0
その他	0	0.0
特にない	0	0.0
わからない	0	0.0
無回答	0	0.0
全体	25	—

## 8 発達の状況について

### 問 14 ご家庭で障害に気づいたのはいつですか。（1つに〇）

家庭で障害に気づいた時期は、「2～3歳」が40.2%で最も高く、次いで「4～6歳」が15.5%、「0～1歳」が12.4%となっています。

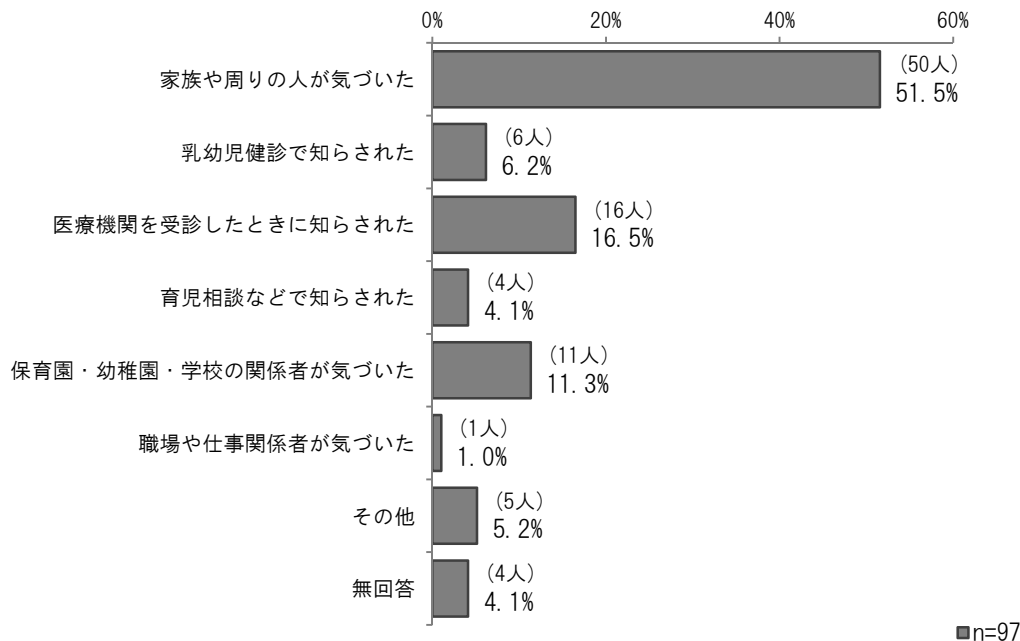
図 家庭で障害に気づいた時期



### 問 15 ご家庭で障害に気づいたきっかけは何ですか。（1つに〇）

家庭で障害に気づいたきっかけは、「家族や周りの人が気づいた」が51.5%で最も高く、次いで「医療機関を受診したときに知らされた」が16.5%となっています。

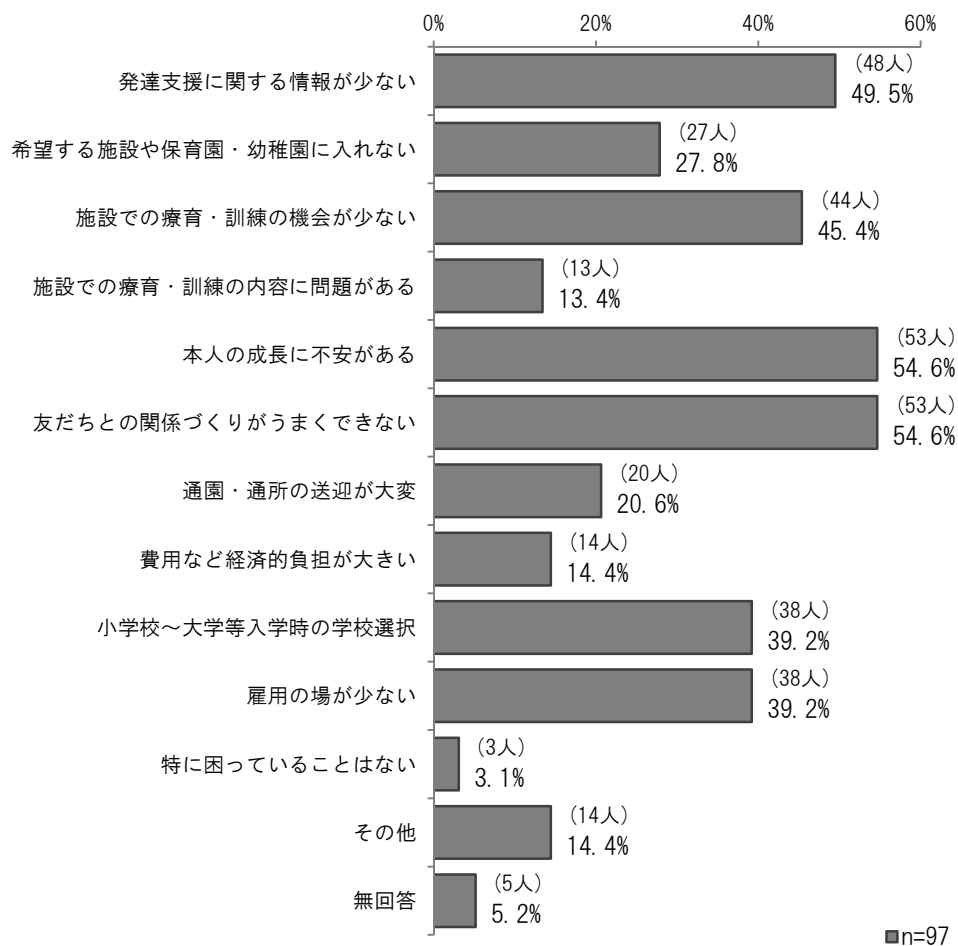
図 家庭で障害に気づいたきっかけ



問 16 発達支援について困っている（または以前困っていた）ことはありますか。  
（すべてに○）

発達支援について困っている（困っていた）ことは、「本人の成長に不安がある」「友だちとの関係づくりがうまくできない」がともに 54.6%で最も高く、次いで「発達支援に関する情報が少ない」が 49.5%となっています。

図 発達支援について困っている（困っていた）こと（複数回答）

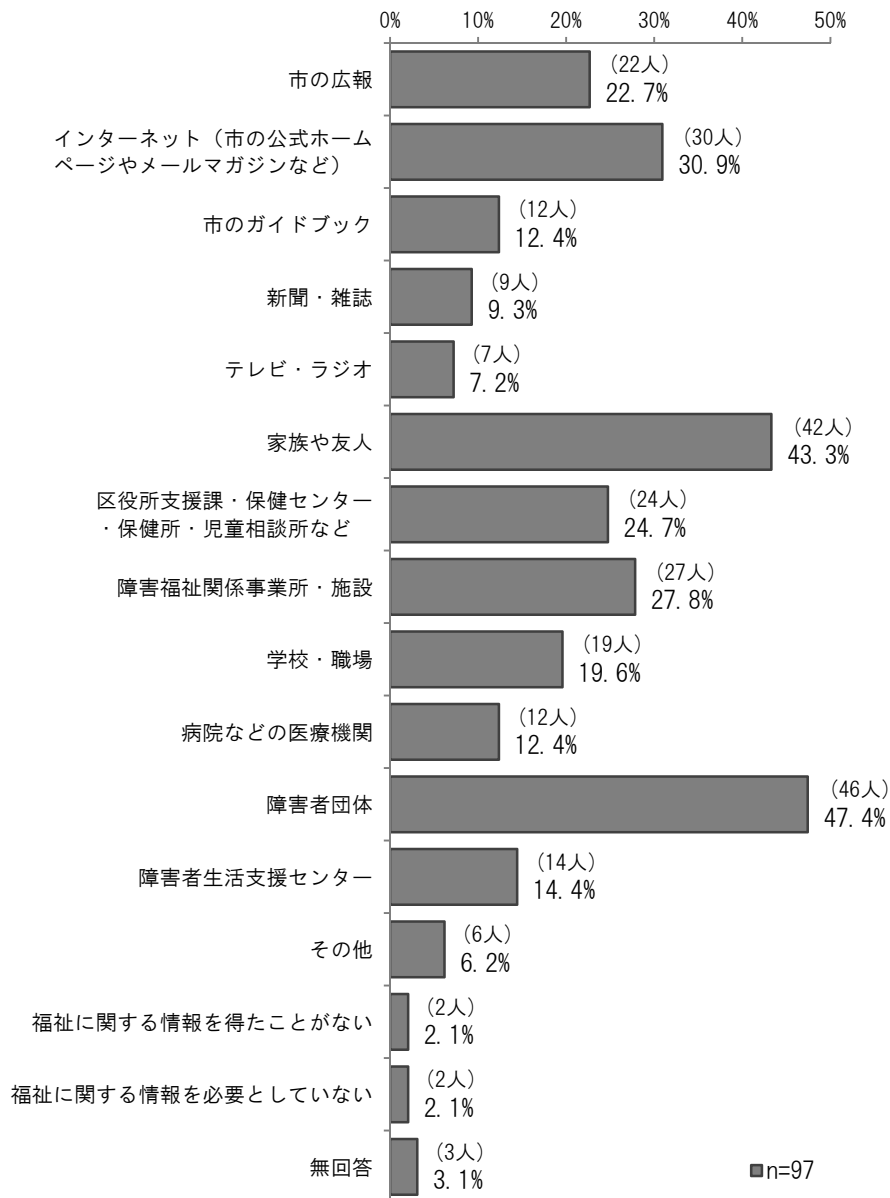


9 情報について

問 17 障害福祉に関する情報は、どこから得ますか。（すべてに○）

障害福祉に関する情報を得るところは、「障害者団体」が 47.4%で最も高く、次いで「家族や友人」が 43.3%、「インターネット（市の公式ホームページやメールマガジンなど）」が 30.9% となっています。

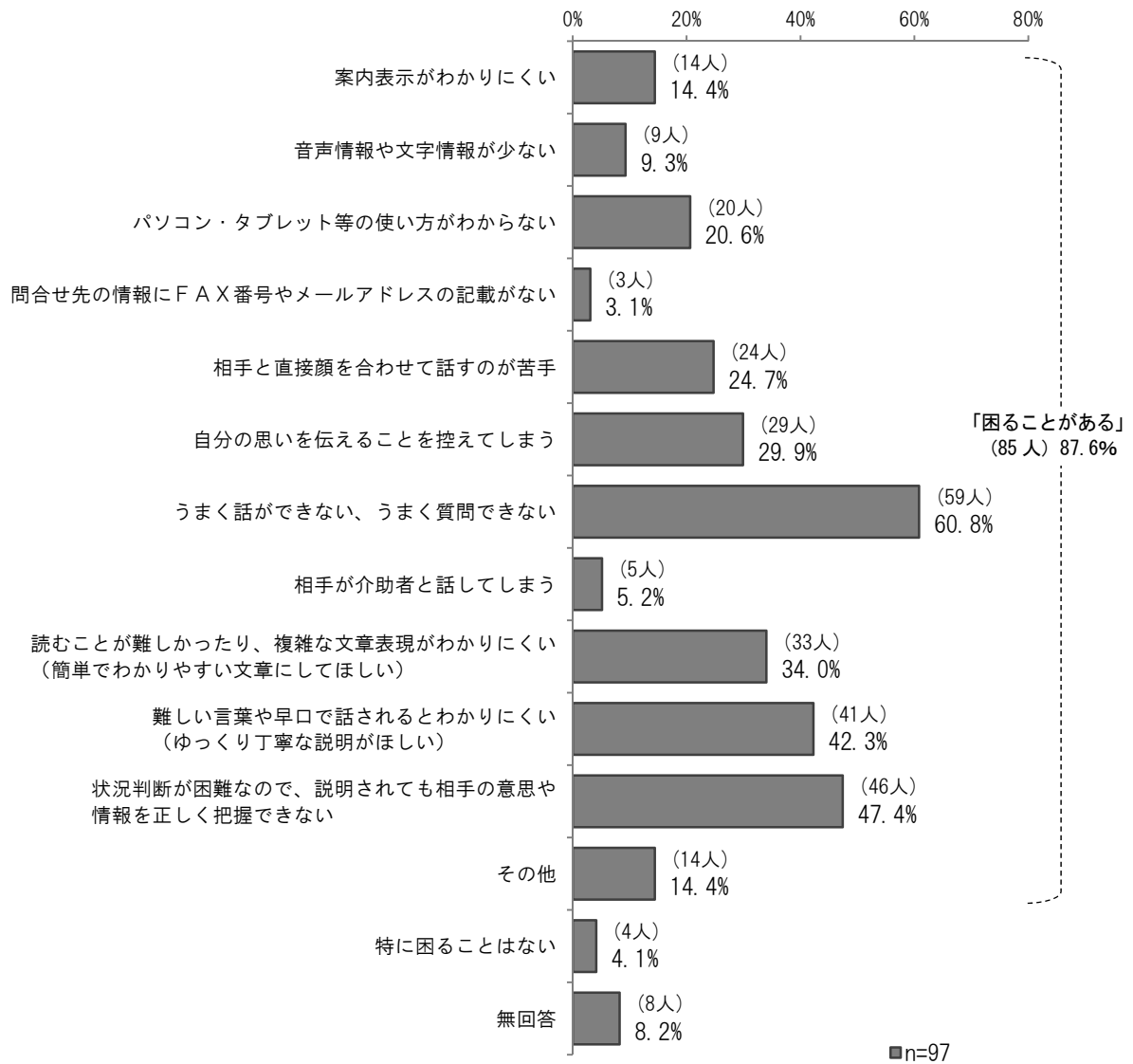
図 障害福祉に関する情報を得るところ（複数回答）



**問 18 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとるうえで困ることはありますか。（すべてに○）**

情報入手やコミュニケーションをとるうえで困ることがあると回答した人は 87.6%（85 人）で、その内容は「うまく話ができない、うまく質問できない」が 60.8%、「状況判断が困難なので、説明されても相手の意思や情報を正しく把握できない」が 47.4%、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい（ゆっくり丁寧な説明がほしい）」が 42.3%となっています。

図 情報入手やコミュニケーションをとるうえで困ること（複数回答）



※「困ることがある」=100%－「特に困ることはない」－「無回答」

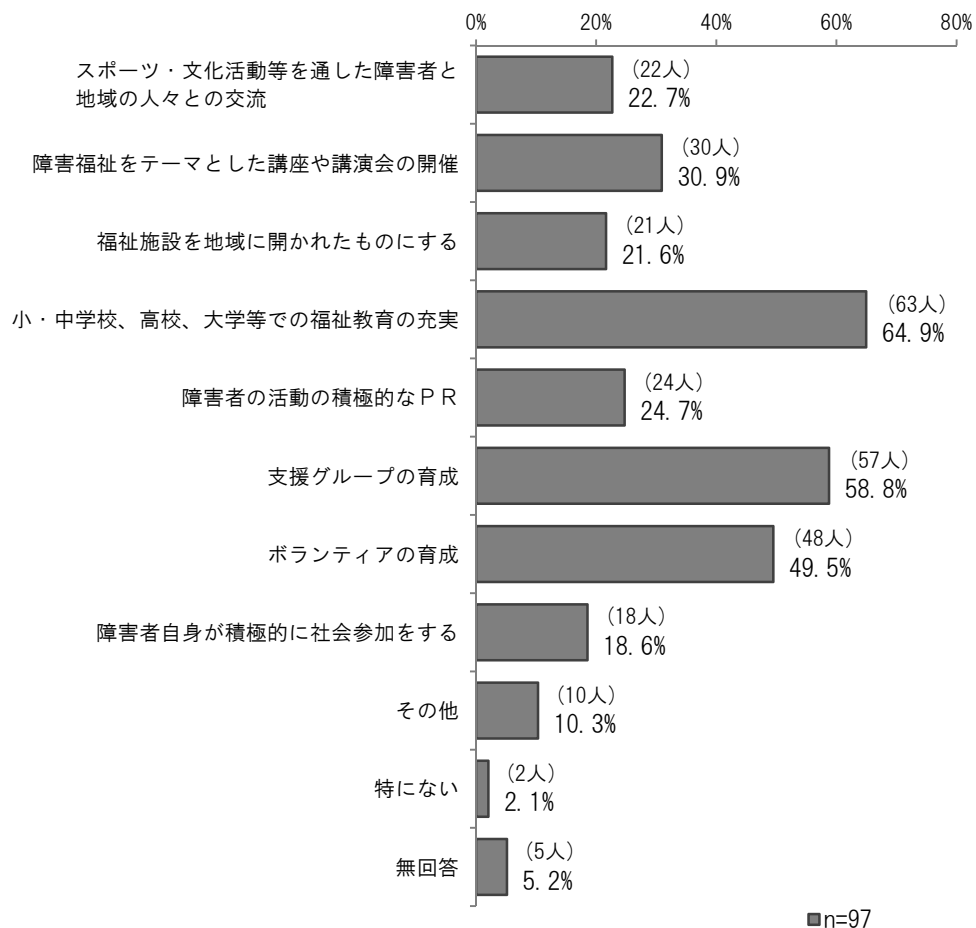


## 10 障害者への理解について

問 19 障害者への理解を深めるために力を入れるべきことは何だと思いませんか。  
（すべてに○）

障害者への理解を深めるために力を入れるべきことは、「小・中学校、高校、大学等での福祉教育の充実」が64.9%で最も高く、次いで「支援グループの育成」が58.8%、「ボランティアの育成」が49.5%で上位となっています。

図 障害者への理解を深めるために力を入れるべきこと（複数回答）



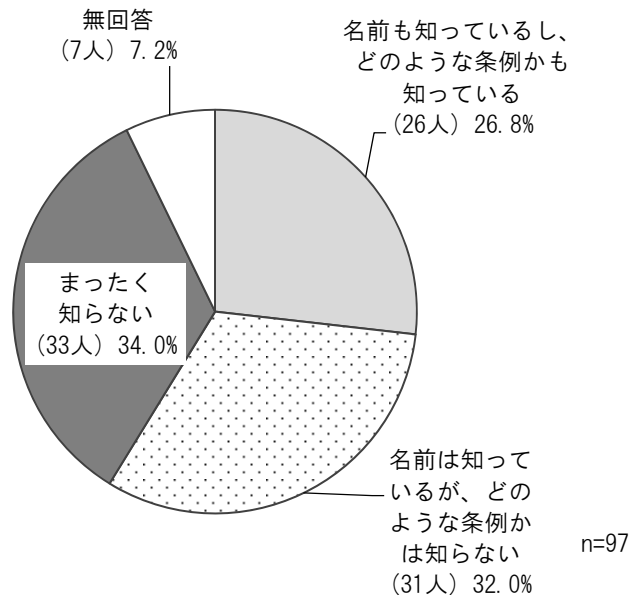
### 「その他」の主な内容

- ・学校の先生等の基礎知識の向上。
- ・学校や地域での啓発活動の義務化。
- ・障害について学び、正しい理解をしたヘルパーやボランティアの育成。

問 20 さいたま市では、障害者への虐待や差別の禁止を掲げた「誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例（ノーマライゼーション条例）」を試行しています。あなたは、このことについて知っていますか。（1つに○）

ノーマライゼーション条例の認知度は、「名前も知っているし、どのような条例かも知っている」が 26.8%、「名前は知っているが、どのような法律かは知らない」が 32.0%となっています。

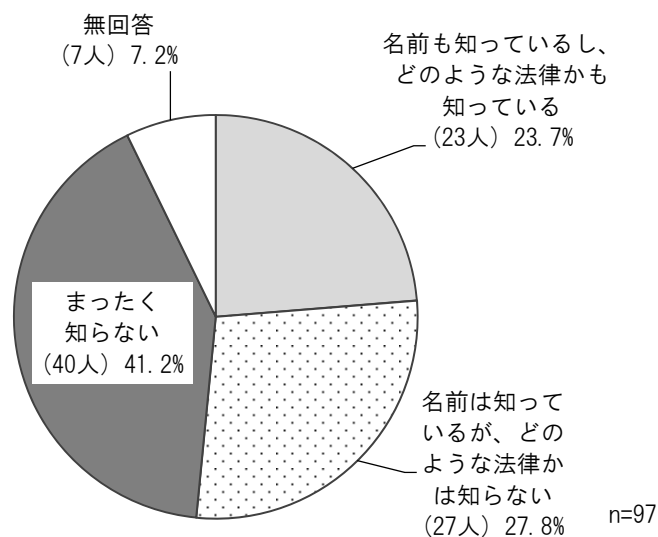
図 ノーマライゼーション条例の認知度



問 21 障害者に対する不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供を差別と規定する障害者差別解消法が平成 28 年 4 月に施行されました。あなたは、このことについて知っていますか。（1つに○）

障害者差別解消法の認知度は、「名前も知っているし、どのような法律かも知っている」が 23.7%、「名前は知っているが、どのような法律かは知らない」が 27.8%となっています。

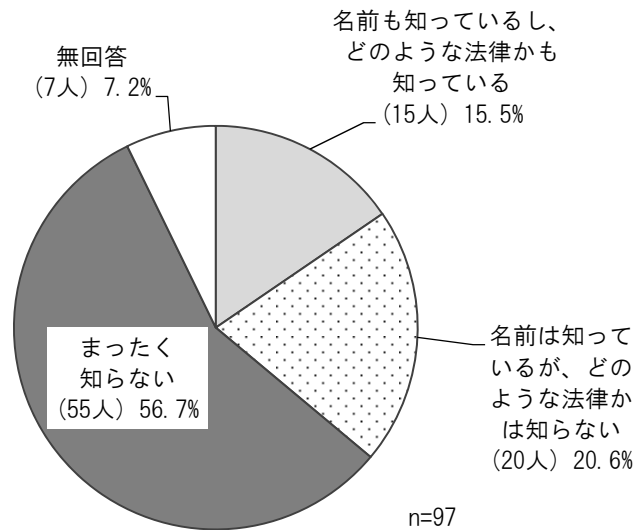
図 障害者差別解消法の認知度



問 22 雇用の分野における障害者に対する差別の禁止及び障害者が職場で働くに当たっての合理的配慮の提供義務を定めるとともに、精神障害者を法定雇用率の算定基礎に加える等の措置を講じた改正障害者雇用促進法が平成 28 年 4 月に施行されました。あなたは、このことについて知っていますか。（1つに○）

改正障害者雇用促進法の認知度は、「名前も知っているし、どのような法律かも知っている」が 15.5%、「名前は知っているが、どのような法律かは知らない」が 20.6%となっています。

図 改正障害者雇用促進法の認知度

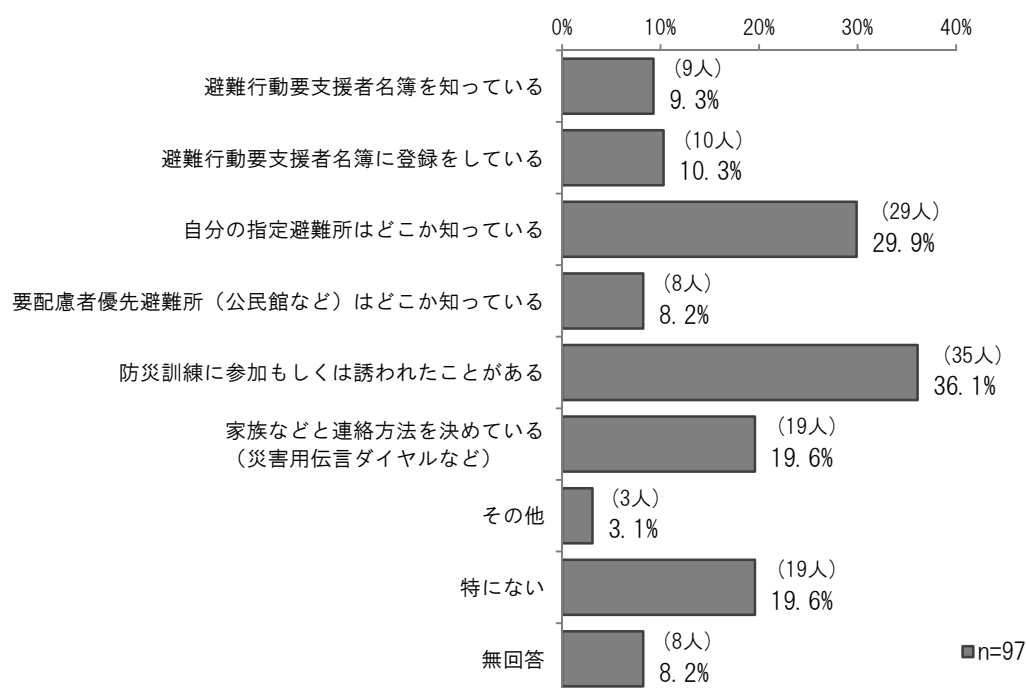


## 11 災害時の対応について

問 23 災害の際の取組について、あなたの知っていることや経験したことはありますか。（すべてに○）

災害の際の取組について知っていることや経験したことは、「防災訓練に参加もしくは誘われたことがある」が 36.1%で最も高く、次いで「自分の指定避難場所はどこか知っている」が 29.9%、「家族などと連絡方法を決めている（災害用伝言ダイヤルなど）」が 19.6%となっています。一方、「特にない」が 19.6%となっています。

図 災害の際の取組について知っていることや経験したこと（複数回答）



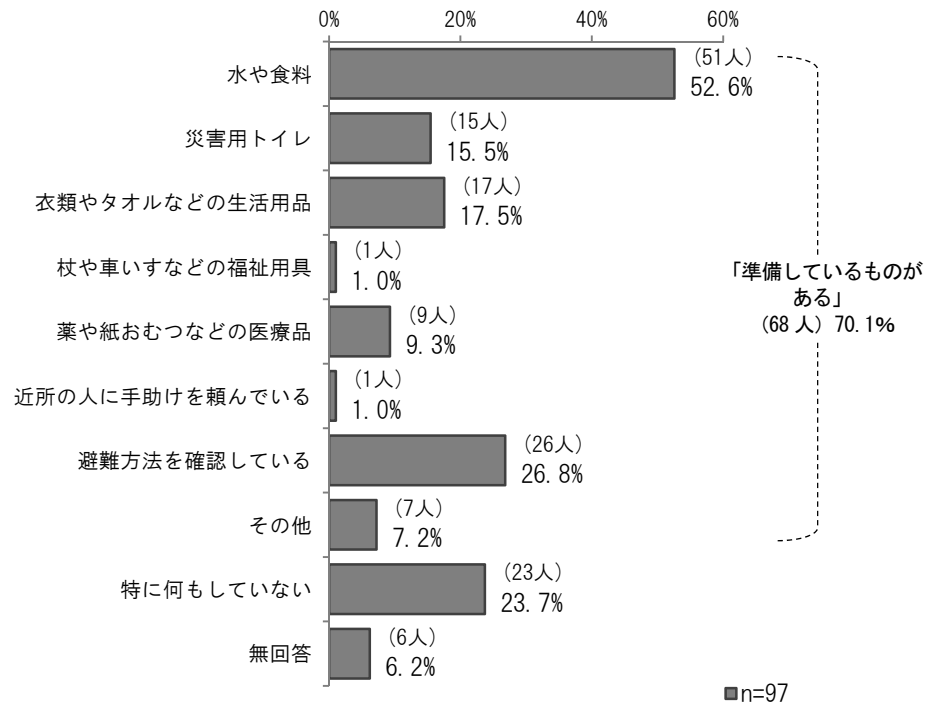
### 「その他」の主な内容

- ・施設で対応。
- ・入所している施設で訓練を行っている。

問 24 災害が起こった時に備え、準備しているものはありますか。（すべてに○）

災害に備えて準備しているものがあると回答した人は 70.1%（68 人）で、その内容は「水や食料」が 52.6%、「避難方法を確認している」が 26.8%となっています。一方、「特に何もしていない」が 23.7%となっています。

図 災害に備えて準備しているもの（複数回答）



※「準備しているものがある」=100%－「特に何もしていない」－「無回答」

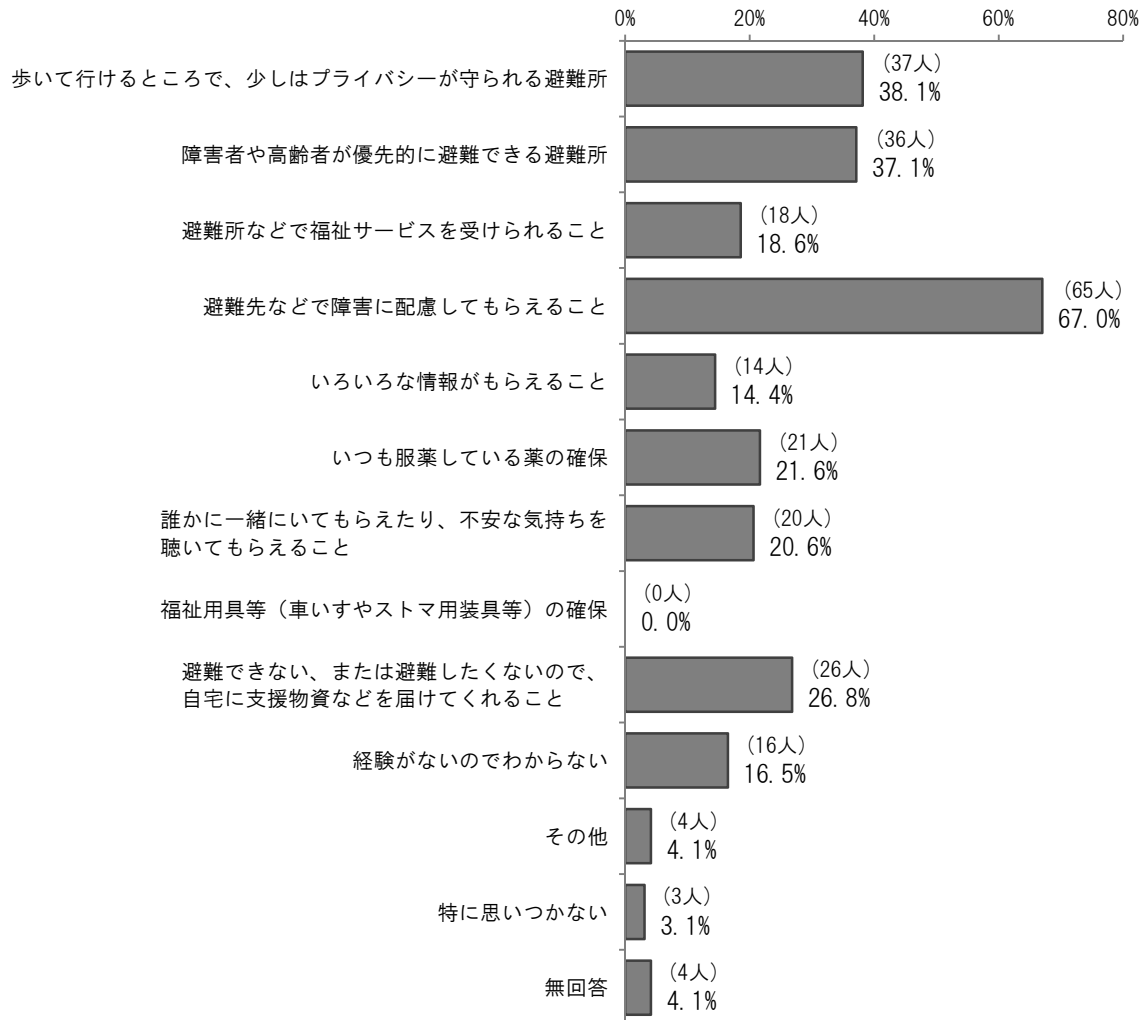
「その他」の主な内容

- ・地域と施設で防災協定。
- ・災害持ち出しグッズ。
- ・体育館などに行くのは無理、できるのなら車中や自宅にいたい。

問 25 あなたは大きな災害があった時にどんな支援があつたらいいと思いますか。  
（3つまで○）

大災害時に望む支援は、「避難先などで障害に配慮してもらえること」が67.0%、「歩いて行けるとして、少しはプライバシーが守られる避難所」が38.1%、「障害者や高齢者が優先的に避難できる避難所」が37.1%、「避難所などで福祉サービスを受けられること」が18.6%で上位となっています。

図 大災害時に望む支援（複数回答）



■n=97

「その他」の主な内容

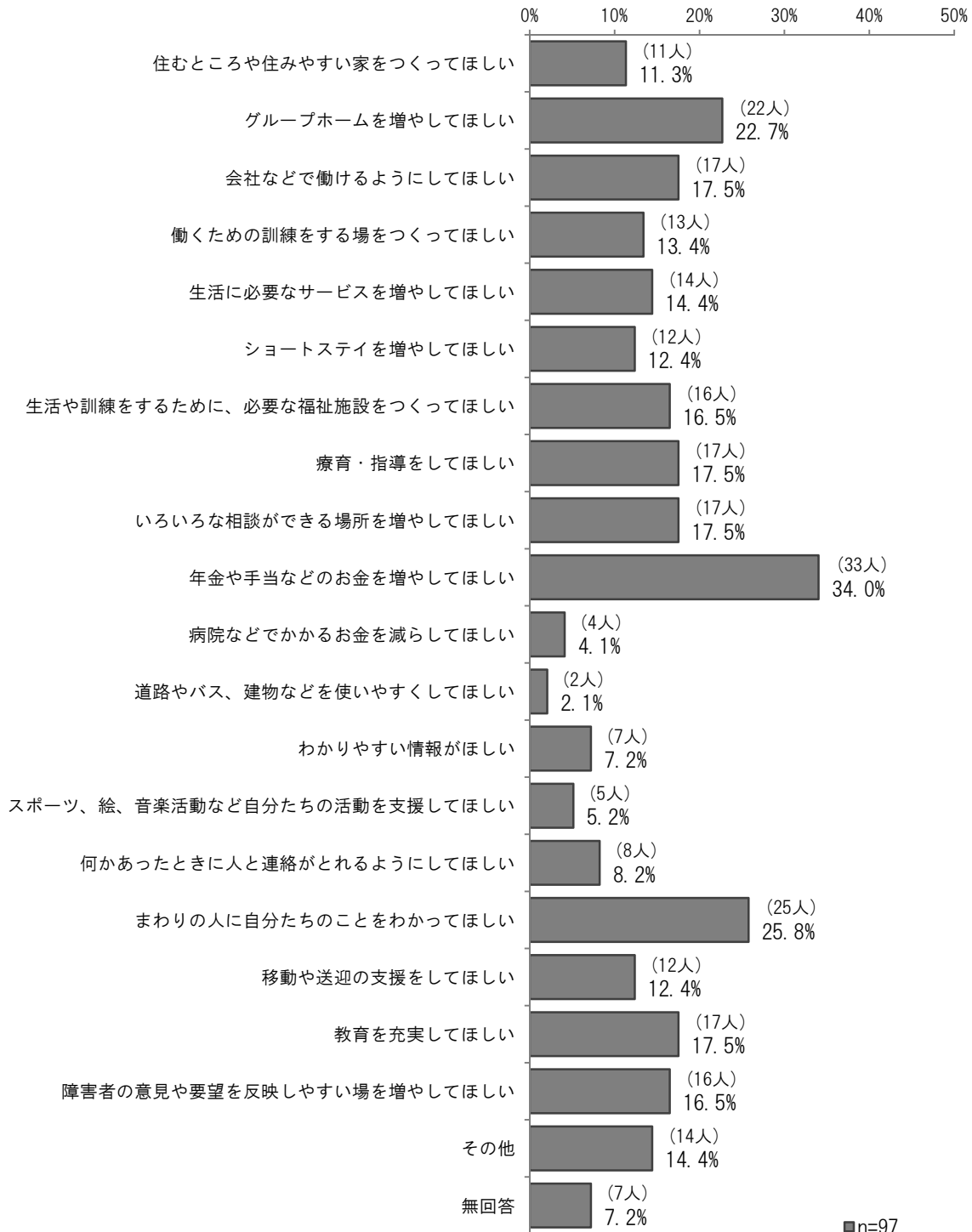
- ・慣れない環境では体調をみだしやすいので、医療（精神）サービスを受けられること。
- ・自閉症なので普通の避難所では、迷惑をかけるので大声を出したり、特別な行動をとっても居られる場所。
- ・ざわめきが嫌いなので、プライバシーの守れる車中かテント生活になる。

## 12 障害者福祉施策への要望について

問 26 障害者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいことはありますか。  
（3つまで○）

障害者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいことは、「年金や手当などのお金を増やしてほしい」が34.0%で最も高く、次いで「まわりの人に自分たちのことをわかってほしい」が25.8%、「グループホームを増やしてほしい」が22.7%となっています。

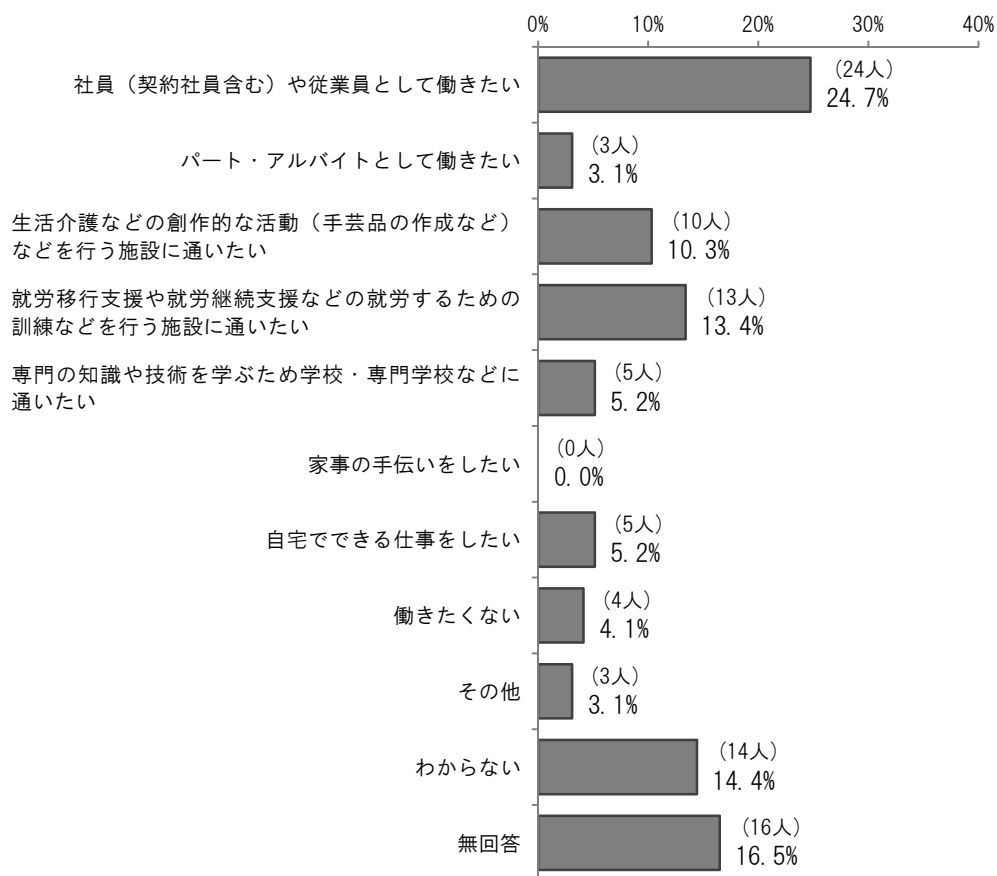
図 障害者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいこと（複数回答）



**問 27 あなたは、今後（未成年の方は、教育課程が修了した後）どのようにしたいですか。（1つに○）**

今後どのようにしたいかは、「社員（契約社員含む）や従業員として働きたい」が 24.7%で最も高く、「就労移行支援や就労継続支援などの就労するための訓練などを行う施設に通いたい」が 13.4%となっています。

図 今後どのようにしたいか



■n=97

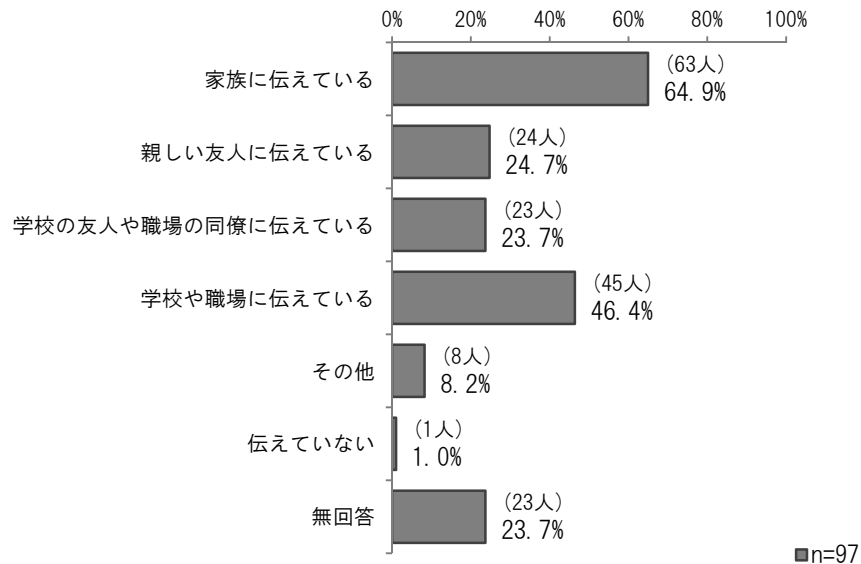


### 13 障害や病気があることについて

**問 34 あなたは、障害者手帳を持っていること、または障害や病気があることを周囲に伝えてありますか。（すべてに○）**

障害や病気があることを周囲に伝えているかは、「家族に伝えている」が64.9%、「学校や職場に伝えている」が46.4%、「親しい友人に伝えている」が24.7%となっています。

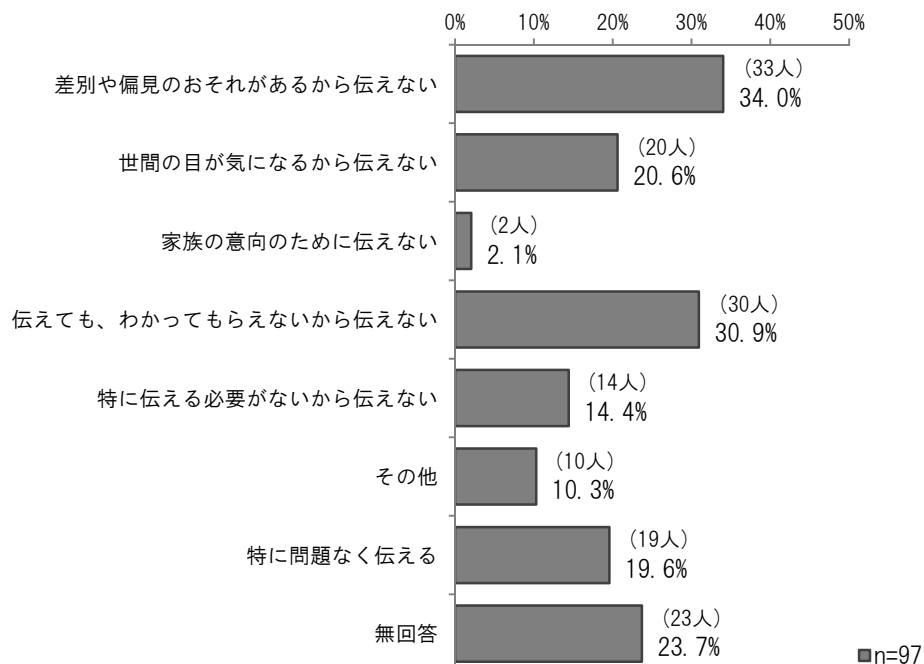
図 障害や病気があることを周囲に伝えているか（複数回答）



**問 35 あなたが障害者手帳を持っていること、または障害や病気があることを周囲に伝えないことはありますか。また、それはどんな理由ですか（すべてに○）**

周囲に伝えない理由は、「差別や偏見のおそれがあるから伝えない」が34.0%、「伝えても、わかってもらえないから伝えない」が30.9%となっています。

図 障害や病気があることを周囲に伝えないことがあるか、またその理由（複数回答）



問 36 この調査を通じて、書ききれなかったことや、ご意見、ご感想などがありましたら、自由にお書きください。（ご家族の方がお書きになっていただいても構いません。）

【抜粋（原文のとおり）】

- てんかんについての差別や偏見がまだあります。特に就労の際（就労の採用試験を受ける際）てんかんであることを告知すると合格できない。（31 歳）
- 学校の先生の対応に差があって親身になってくれる先生もいるが、不適切な言動の先生がいる。学校全体で理解、支援してもらえるよう、教職員の研修をしてほしい。（14 歳）
- 本人はアスペルガー症候群ですが、知的に問題なく、他害等のトラブルもないため、ほとんど支援（公的な）が受けられません。学校でのコミュニケーションの問題などに関しては、担任の先生と私達両親を中心に、諸先生方のご理解ご協力のもとご支援いただいております。しかし、現場の先生方のご負担が大きい上、現場に発達障害の専門の先生がいらっしゃらないため、専門的な対応が難しいことで困っています。（8 歳）
- 親も子供も年を取ってきているので、この先が不安です。グループホームに入れたいが、数が足りていないので、数を増やしてほしい。また、支援員さんの研修の場を増やして質の向上も計ってほしいです。（33 歳）
- 周りに障害者が少なく、同じように生活しているのに避けられたり、差別されたりするのは、小さいころから一緒に空間で過ごすことが少ないからだと思います。もちろん、配慮が必要だったりするので区別は必要だとは思いますが、もう少し障害者がいろいろなところに普通にでかけたり、そこにいるのが当たり前になるようにできたらいいと思います。（4 歳）
- 発達障害の子を持つ親の会の講演会に参加いたしました。とても有意義なお話を伺うことができ、又、会の存在のありがたさを感じてまいりました。（24 歳）
- 今後、親が高齢、病気やその介護により、障害のある子の介助・介護・支援ができなくなり、現状の生活が困難になる問題が出てくると思う。（経済的にも支援が出来なくなる）。住み慣れた場所の近くで、環境に慣れやすい若い年齢の時に家族と離れ、グループホームなどの施設などで自立する生活がおくれないものか。（21 歳）
- 親の介護が必要な年齢となり、いつ何が起きるかわかりません。緊急時でも利用できるショートステイの充実を望みます。質の問題はともかく、放課後等デイサービス制度のおかげで、障害児を持つ母も働くことが可能になりました。障害児の母だって働きたいと思っている人が沢山いるのだと思います。（20 歳）
- 現代の日本社会は、発達障害に関しては、あまり理解し難いのももう少し理解できる社会になってもらわないと困る。美術館、テーマパーク、バス、電車以外にほとんどが障害者割引を施行してほしい。（22 歳）
- いつもご支援ありがとうございます。手厚い障害児支援が終り、先行がとても不安でしたが、よい、生活介護施設に恵まれ、遠いところを、送迎もしていただいています。ただ、若い職員さんが入っても 5 年もたつと離職してしまいます。せっかく息子のこともわかってくれたと思うころです。とても残念でこれから先、不安でなりません。（23 歳）